啓次　遠藤平八郎　鷲頭新策　高橋俊三　片桐眞一　山岸泰之助　高橋浦次郎　安達福次　渡邊キク　齋藤ケイ　永原ヒデ　長谷川善作　阿部金治　永瀧文一郎　渡邊喜衞治

以上

△彌よ二十二日午前八時から授業を始めた、鎌倉と同じく午前一時間講話、三時間靜物寫生、午後は三時より日沒迄戸外寫生をやらした、又、夜の講話も試みた、會員一人の遲刻なく、最終迄欠席者なかりしは、其熱心の度を推するに難くはない。

△靜物寫生の材料は、書物に酸漿、南瓜、喬竹桃、ビール壜、三脚にスケツチブツク、コツプに梨等で、背景の布は多く白を用ひ、まゝ海老茶又は鼠の布を用ひた。

△戸外は、諏訪神社境内、蛇崩海岸、三角堂、町裏海岸にて親船等を寫させた。

△會員の多くは、初めて規則立つた寫生をするので、第一日は甚だ成績が惡かつたが、翌日よりは著しく進歩して、往々優秀の作を成した人もある。たゞ一般に、用具不完全なるため、其技の見るべきものあるに拘はらず、其結果の良好ならざりし人のあつたのは惜しむべきである。

△かくて、一週間は夢の間に過ぎた。幸ひに天氣續きであつたし、また絶えず涼風が吹いてゐたので、暑氣に苦しむことなく、二十八日午前、批評を爲し、同時茶話會を開いて、正午目出度散會したのである。この講習に於て、私は鎌倉以來の疲勞のため、充分の力を盡すことが出來なかつたのは、遺憾に思ふ處で、この點は會員諸君に御詫を申上げ、同時に、長谷川氏が、卒先して熱心盡力せられし御厚意を謝し、尚出雲崎町有志が、此講習會に同情をよせられ、多大の便宜を與へられしことを爰に深く御禮申上る。

（汀鷗）

蟬時雨

（鎌倉）

■鎌倉はお初にお目にかゝつたが失望もしたり滿足もしたり、失望はモットよい處と思つてゐたから、滿足は講習の面白かつた事■白狀すると僕はこれでも國では御自慢の方で、內心得意でゐたが、他の諸君の繪を見て少々參つた、其上講話をきいて見ると、水彩畫も中々むづかしいものといふことが知れて少なからず鼻柱を折つた■由井ケ濱の寫生、あまり早く起きたので再寢をしたらモー皆んなが出掛る處で驚いた■この朝の腹の減つたこと非常滅法、時間はまだ八時だつたが腹だけは三四時間も先走してゐた■ヘト〳〵になつて濱から宿へ歸つたが二十町もあるので更に大凹み■首ばかり前へ出て腹は脊に引着いて仕舞つた、橫から見たらさぞ妙だらう■日はぢり〳〵照りつける、先生の脚は馬鹿に早い　汗はタク〳〵一生涯を通じての大苦しみだ■まさか■れむい〳〵この頃の眠さは曾て覺えがない■あまり夜更しをするからよ■不圖眼をさますと皆起きてゐる、寢てゐるのは二三人だ、向ふの二階に先生が起つてこつちを見てゐる、極まりの惡い事絶頂だ■誰れだか一寸顏を出したが直ぐ夜具を冠つて、仕舞つて、其儘障子の蔭へ逃込んだ人も

ある■起きてこつちを見てゐたT先生はまだよいが、M先生は來て蒲團をまくるのは手酷い■隨分面喰つたれ■一タイ先生達は朝は無やみに早い、誰だつてT先生より先へ起きた人はなからう■五時前といふのに大きな嚔がきこえる、あれはM先生の起きた證據で近處で評判だそうで■會員の體裁こそ見ものだ■K、M君の和服クネタイ、それはあまりキレーでもない手拭を首からぶら下げてゐるのだ■一寸チヨーホーなものだとさあ■■これが傳染したから妙だY、K君も始めた■まだ誰かもやつてゐた■M、M君の笠と來たら奇拔だれ、あのカラダてあの坊主笠、どう見ても諸國巡禮のお寺さまだ■S、S君の帽子は鼠に喰れたとかて穴があいてゐる■あれは空氣拔だとよ■夏向は腦が惡くなるからとは苦しい言譯され■僕はそんな言譯はしやしないよ、■T、H君の海水浴帽も空氣拔のためかれ■空氣拔ならよほど御念の入つたものだ■I、K君やK、H君S、Y君など建長寺連はドウ見ても方丈樣スタイルだ■建長寺を選んだものも無理はないれ■神社の柱や天井に貼つてある納札を剝がして、寫生箱やスケツチブツクに貼ることが流行した■この元祖はT、N君で、寫生箱には五六枚貼つてあつた■どうもよく剝がれないものさ■自分で製造したのもある■納札剝がしも大流行を極めたが、物を捨てるにも隨分流行したれ■まづS、S君が丸屋の横で筆を捨てた■あれは故意だとさ、後世S、S畵伯の筆捨橫町とよばせる爲だとさ■あな恐ろし、あの御腕前で■失禮なを申すな■會場には久しくスケツチブツクと雌黃の大きな固りが捨てゝあつた■池の中へワツトマンを捨てた人もあつた、甚しいのは停車場の近處で五圓札を捨てゝ、閉會迄居られなくなつて歸國した人もあつた■鎌倉へ來た途中に無暗に金を捨てゝあるいたゝめ、安い宿を尋れ廻つてゐた人もあるさ■オトツサンは大切の〳〵傑作、杉林の寫生畵を宿で捨て眞靑になつてふさいでゐた■あの繪はよく出來てゐたのに惜しい事をしだれ■海岸て手に持つてゐた繪具箱を砂の上へ捨てゝ、思切りわるくも拾ひ上げたが仕末に困つた■僕はこんなに繪がマヅくつては大に悲觀せざるを得ない、アー由井ケ濱へても身を捨てやうか■由井ケ濱は危險だ、滑川にでもしたまへ、そしてなりたけ近處に人の居る時にれ■八幡の池へでも身を捨てゝ鯉や鮒と一しよに歎でも喰つてゐた方が氣樂らしい■江の島行は面白かつた■電車の中でM先生の案內口上、御自分では案內者のおつもりだらうがあれては料金は出せないれ■料金といへは岩窟の中で案內賃思召(おぼしめし)といふから三人で一錢やつたら妙な顏をしてゐた■螺螺の壺燒と申すもの再び喰ふなかれだ、あの壺に殘つた汁を一しよにして次へ〳〵と出すのは驚く■誰れの喰剩しが這入つてゐるのか知れぬ■何百年前からのもあるだらう■江戶時代の汁などは恐入るれ■棧橋で橋錢をゴマカシた人もあつたげな■岩の上でステントーとやつて尻を濕らした若い男女を見た■會員でなくて御仕合せ■誰れかヤツたかも知れないよ■お仕合せといへばY、K君の白地の單衣の肩のあたりへ黃色い松脂をベタリつけてゐた、すると之がお尻の近處でなくてお

（出雲崎）

仕合せと誰やらが言ふた■江の島行の朝、風が寒く雨が降りそうなので下へ着込んで往つた連中は、風なし照つけのヂリ〳〵暑に大閉口■文房堂の番公は愛嬌者だつたれ■脚氣のために道を歩行くに幾度も休むのはよいが、鶴ヶ岡や頼朝の墓の石段を見上げて屹度『マタニシマセウ』といふ■此愛嬌者が下座敷の八疊に陣取つて飯を喰ふとき、其の座敷の眞中にチヨコンと座つてゐるのは中々オツだつた■多分店ではゴチヤ〳〵と大勢の中で小さくなつて喰つてゐるのだらうから、こんな時だと大に威張つて見たのさ■あまり皆でヒヤカスのでトウ〳〵座敷の隅の方へ退却した■それでもワイ〳〵言ふので仕まいには障子を締めたよ■障子の穴から見えるぞと吐鳴つたのもあつた■この人だよ、氷屋へ往つてレモンエローを呉れなんて言ふたのは■ナニ、レモンを入れてくれと言つたのさ■嘘々、そのあとでクリムソンレーキなんて言つたぢやないか■生蕎麥（きそば）をナマソバと讀んだ人もあるさ■イキソバと解した人も居たよ■僕は勢のよい蕎麥と思つた■『赤ムジサルス新着』この看板を見て何と判じられ■アカムジサルス？　解らんなア■面倒だからきいて見たらサルマタとの事だつた■其後通つたらスの字にマタと假名がついていた■踏切を通らうと思つたら、汽車が來て横に棒が下つた、やがて滊車がまだ通り過きぬうち急に棒が上つたから溜らない、この棒に腦を載せたり腕を載せて、口をポカンと開いて滊車を見てゐた連中の其驚き！　■隨分パツク式だつたれ■この近處にある源座こそ振つたものだ、野天よりか增しだといふが野天の方が屋根の落ちて來さうな心配がなくてよい■この中へ入つたら歸りは着物を捨てゝ眞裸體で家へ入らなくつちやいけぬとさ■何故々々■蚤が澤山で其儘着て入つたら其夜は取殺されて仕舞から■マサカ■車艦拜見に往つた連中にも多少奇談はあるよ■水交社で窓掛の開閉に驚いたのは誰れか■連中一同に御座候■午後の一時過いよ〳〵宗谷鑑を拜見した、甲板は燒つく樣に熱い、そこを素足だから溜るものか、甲板に居るうちは兩足を交る〳〵上げては耐えてゐた■説明などは耳に入らない滿身の注意は足の爪先に集つた■中々奇觀だれコレをデツキダンスと申ます■當人の身になつて見たまへ、そんな洒落たものではないア、熱い！　■八幡社前の鐵柵の中に熊が居る、誰れも畫かぬやうだ■まづH、K君が畫くべきものだらう、あのスタイルがよく似てゐるから吃度よく感じが出るよ■丸屋の夜程面白い愉快な場處は他にはあるまい■僕は曾てこんな面白い經驗を持たない■講習がモー一ケ月も續いて呉れゝばよいね、畫は好きな繪をかく、夜は氣の合つた友達二十人ア、死にたくない■隨分藝人も居るがS、S君、M、K君、H、M君、T、H君なんか頭領株さ■晝間うつかり繪でも罵倒しやうものならそれこそ大變夜になると散々にいためつけられる■花王シヤボンなんて口達者も居るからね■學校で出席簿の點呼の時奮つた聲を出すのはG、S君■五十人は其顔の如く聲も異つてゐるから面白い■M、K君の聲もオツなものさね■二日の丸屋同宿茶話會は何だつてアンナに遠慮をしたのだらう■文房堂がカツケダンスで

もやればよかつたに■カヅケダンスにデヅキダンス隨分よい取組だ■九日の全員茶話會は奮つたれ■腹顏山人の舞踏も絶倒させたが、オトツサンの口上も上手だれ■活動寫眞の說明者にしたら吃度大喝采■何でも淺草の奥山に十年も修業したのだそうな■M、T君の『薩摩琵琶』は正に是れ天下一品■H、M君の京阪辯の講釋もよかつた■T先生とH、T孃との『對話』は何かと思つて片唾を飲んだよ■あまり眞面目なので少し驚いたれ■閉會當日オトツサンと洗濯屋サンとが羽織を召しての御出席は物堅い■ナアニ寫眞を撮るので一寸メカシたのさ■他でもオメカシした人もあつた樣だ■別れの茶話會も面白かつたが僕は悲しくなつた■『動物園』は吉例だそうだがアレは實に不思議だ■H、O君のアノ驚きやうつたらなかつた■M、K君の『仕方話』はキザな身振だれ■T先生の『巡禮』は舶來だらう■M先生の『即席寫生』は御手際なものだつた■以上、見聞子、よしこの生、目鏡の人、M、M、M生其他無名氏の投書及會員の直話抜粹

（編　者）

そめこ集

（出雲崎）

■『水彩畫夏期講習場』この立札を學校の門に見た時はいよ〳〵明日からとゾク〳〵した■戸外寫生は振つたものだれ見給へ一生懸命だ■三脚代用とあつて油紙を敷いてゐるのは奇抜だらう■澁紙もあるよ、■跣足になつて下駄に腰かけてゐるのもあるさ■下駄や石はマダよいよ思ひ切つたのは地面の上へドツカと座つてゐる■一つの繪具箱を二人で使つてゐるれ■筆洗の二人共用もあるさ■大阪製のチユーブ入を一々押出しては筆の先へつけゐる氣の永い人もある■多分日の永い國で生れたのだらう■パレツトなしで立派な繪を描き上る技倆は實に感心だらう■繪具の話をきいて見ると僕等の持つてゐるのは皆ダメだ■實は僕もモット繪が旨いのだが繪具が悪いかられ■中には雌黄のつもりで染彩を使つて繪を眞黄色にして仕舞つた人も居た■其人のパレツトも眞黄色だつた■草鞋ばきて毎日通つて來る熱心家も居たれ■何でも二里からあるとの事だ■大きな根つけの着いた昔風の煙草入を腰に下げてゐる人も居たれ■自製三脚の圓い樫の棒を太鼓の撥と間違られてアナタは役者かれときかれた人も居る■あまり優さ男でもないのにれ■役者らしい髪の毛をわけたハイカラさんもあつたよ■三角堂は不思議なものだ、何でも三角家根から天井から疊迄三角だ■ナゼ窓も三角にしなかつたのだらう■兎に角こゝの主人はヒネクレものだれ■腐さつたり干枯びた梨も出來たが紙製の南瓜もあつた■ブリキ製の書物もあつたさ■茶話會の餘興を一人で引受けた勇士があつたが遠慮深い人が多かつたので振はなかつたれ■クロモチ、シロモチの合戰はよかつた■シヽメ〳〵と申けりとは何かれ■進め〳〵と申けりさわからない男だな（完）